



JETRO

JAPAN EXTERNAL TRADE ORGANIZATION

インド経済短信

2005年 4月 26日発行 第217号

発行：ジェトロ・バンガロール 編集：久保木一政 海外投資アドバイザー

#407,408, Prestige Meridian II, 4th Floor, M.G. Road, Bangalore -560 001

Phone:0091-80-51138168, Fax :0091-80-51138169, E-mail:jetrosan@touchtelindia.net

-
1. 日系バイオベンチャー メディビック、インドのバイオ企業に出資
 2. インドの貴金属・宝石の輸出が急増 - ダイヤモンド取引のハブを目指す
-

1. 日系バイオベンチャー メディビック、インドのバイオ企業に出資

日本の先駆的バイオベンチャー、メディビックの橋本康弘社長は24日、今般開催された国内最大のバイオ博、バンガロール・バイオ2005で講演し、今後インドのバイオ企業と積極的に提携を進めていく考えを明らかにした。

メディビックは2004年8月にストランド・ジェノミックス(本社バンガロール、ヴィジャイ・チャンドルウ社長)の株式約10%を取得し、医薬品の研究・開発支援ソフトの共同開発に乗り出した。さらに、リアメトリックス・インディア社(同バンガロール、バラ・SマニアンCEO)とも最近業務提携を行った。同社としては今後とも同様のパートナー・シップを拡大して行きたいとしている。

日本では2000年に医薬品の臨床試験の基準が緩和され、外国の製薬会社にとっても承認が取り易くなっている。これまでは臨床試験の基準は外国企業にとっては一種の非関税障壁であり日本の製薬会社は保護されていたが、緩和により外国メーカーとの競争に晒されることとなった。この動きが山之内製薬と藤沢薬品、三共製薬と第一製薬の合併につながっている。

日系企業としても相当額の投資が必要とされる医薬品の開発でコストを節約する必要があり、かかる観点から高い技術水準を持つインドのバイオ企業との提携は、日系企業の競争力強化に重要な役割を果たすと、橋本社長は指摘する。

もっとも橋本社長にしても、インドのバイオ企業の実力について最近まで認識がなく、提携した先の存在も米国経由で知ったという。インドの実力は米国経由で日本に宣伝する。対日本市場マーケティング戦略の重要なヒントと言えるかもしれない。

現在、インドのバイオ企業数は全体で265社、そのうち131社がカルナタカ州に立地し、そのうちの127社がバンガロールにある。2004年度に新設されたバイオ企業数は25社で、このうち21社がカルナタカ州で設立されている。この21社に対するベンチャー・キャピタルの投資は1億1,200万ドルに上っている。

しかしながら、インドのバイオ産業はまだ発生段階 (nascent stage) にあり、政府からの強力な支援も必要としている。このため、インド政府も 4 月初めにバイオ政策 (National Biotechnology Development Strategy) の原案を発表した。

現在、政府は同政策案に対する各方面からの意見を聴取中であり、今回のバンガロール・バイオでも盛んに討議された。バイオ政策では、2010 年までにインドのバイオ産業の売上を 50 億ドルに、また雇用人口も 100 万人にすることを目標としている。

2. インドの貴金属・宝石の輸出が急増 - ダイヤモンド取引のハブを目指す

貴金属・宝石輸出促進協議会 (Gem and Jewellery Export Promotion Council, GJEPC) が 20 日発表したところによれば、インドの 2004 年度貴金属・宝石の輸出は 156 億 7,000 万ドルで前年度の 121 億 2,000 万ドルに比し 29.3% と大幅増となった。

このうち、ダイヤモンドが 111 億 8,000 万ドルで前年度比 29.6% 増、金の宝飾品が 38 億 1,000 万ドルで、同 42.2% 増となっている。ダイヤモンドの輸出が全体の約 72% を占める。同協議会では、この勢いがこのまま続くと 2005 年度は 180 億ドル、また 2006 年度は 200 億ドルを達成できるとしている。

一方、輸入はダイヤモンド原石が 75 億 9,000 万ドルで同 6.3% 増、研磨ダイヤモンドが 28 億 2,000 万ドルで同 137.8% と急増した。

GJEPC はインドをダイヤモンド取引のハブにすべく、現在ムンバイにインド・ダイヤモンド取引所 (Bharat Diamond Bourse) の設立を進めている。2006 年度中には準備が整う予定である。

インドが宝石・ダイヤモンドの世界でも最大級の市場となりつつある。スーラット (グジャラート州) がダイヤモンド加工の拠点アントワープ (ベルギー) の地位を脅かしつつある。こう報じたのはフランドル語の週刊誌「Knack」。

4 月 3 日付け *Financial Express* 紙によれば、スーラットのダイヤモンド研磨人口は 75~100 万人で、一ヶ月約 5,800 ルピー (約 1 万 4,000 円) の賃金で研磨に従事する。この影響でアントワープの研磨業者が激減しているという。さらに、アントワープには主としてグジャラート州出身の商人が 400 人ほど滞在し、ダイヤモンド取引を行っている。

インドは従来アントワープからダイヤモンドの原石を輸入し、インドで研磨して輸出するという加工貿易を行っているが、最近アントワープに代わってインドの重要なダイヤモンド原石の供給国となりつつあるのが中近東のドバイである。インドとドバイの貿易は表 2 の通りだが、2003 年度よりインドのドバイからの輸入が急激に伸びているが、この主な要因がインド向けダイヤモンドの拡大と見ることが出来る。

表 1【インドの貴金属・宝石貿易の動向】 単位：10 億ドル

	2003 -04	2004 -05	増減率%
輸出	12.1	15.7	29.3
ダイヤモンド	8.6	11.2	29.6
金宝飾品	2.7	3.8	42.2
宝石	1.8	1.9	8.1
輸入	9.3	11.6	23.7

(出所：4 月 21 日付け Business Standard 紙を基に作成)

表 2【インドのドバイとの貿易】 単位：金額 百万ドル， 増減率%

	2002 -03		2003 -04		Apr -Jan/04		Apr -Jan/05	
	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%
輸出	3,336.1	33.4	5,093.4	52.7	3,883.8	42.9	5,583.1	43.8
輸入	959.5	4.5	2,065.2	115.2	1,535.6	107.5	3,578.7	133.1

(出所：CMIE Monthly review of the Indian Economy Aug. 2004 and Apr. 2005)
(了)

お知らせ：出張のため、次号第 218 号は 5 月 2 日頃の発行となります。